

太宰府市俳句ポスト百二十五回 入選者

(令和六年十一月十三日、令和七年二月十二日)

阿比留 初見 選

反橋をやうやく渡り初詣	福岡市	白井 道義
好きなことさせてもらつてゐる小春	太宰府市	入江 眞己子
地の人と軽くおしやべり日向ぼこ	太宰府市	白石 照子
馴染みたる仮殿豊かなる冬日	福岡市	飯田 絹子
守らるる法灯拝す石露の花	太宰府市	福永 恵美
水鳥をちりばめ山の池平ら	大野城市	北 嘉与子
句会待つ間も底冷のまとひくる	筑紫野市	村田 芳花
お雑煮と土産話と旅の夜	三重県	今井 克俊
落葉踏み仏の山へ一歩づつ	春日市	中西 たつ代
手袋の温もりそのまま子に渡す	愛知県	武田 桜
鰯口の音くぐりつつ冬の寺	太宰府市	有岡 和砂
末社へと誘ふやうに鴈高音	春日市	永利 五十鈴
菊を観て仮殿くぐり又菊に	糟屋郡	西村 榮子
外つ国の言葉で菊も愛でられて	糟屋郡	芳野 加代
喧騒の宮居の菊に在る静寂	太宰府市	磯村 順一郎
うめがえのもち食べくらべ寒さとか	福岡市	寺田 昇生(八歳)
きもの着てたくさん思い出七五三	太宰府市	前川 美心(十歳)
わいわいと青空の下で秋祭	太宰府市	鯉坂 拓真(十二歳)
クリスマスなにがくるかなプレゼント	太宰府市	安部 泰志(十三歳)
熟帰り君と見つけたオリオン座	太宰府市	鯉坂 祐翔(十四歳)